

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

東野委員長。〔１２番 東野恭行君登壇〕

○１２番（東野恭行君）

おはようございます。

昨日、６月１８日に議会運営委員会が開催されておりますので、その経過と結果について、ご報告いたします。

陳情第５号の審査において、近藤新二議員の件に関しての政治倫理審査委員会設置について、議長に対し審査請求を行い、一般質問最終日の日程事項とすることで委員会の意見の一致を見ております。

なお、陳情第５号について、継続して審査することといたしております。

ほかにも議論が交わされておりますが、報告は割愛させていただきます。

以上で、議会運営委員会委員長報告を終わります。

○議長（古畑浩一君）

ただいまの委員長報告に対する質疑に入ります。

ご質疑ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

ご質疑なしと認め、これにて質疑を終結いたします。

お諮りいたします。

ただいまの委員長報告のとおり進めることといたしたいと思います。

それにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

ご異議なしと認めます。

よって、ただいまの委員長報告のとおり進めることと決しました。

日程第２．一般質問

○議長（古畑浩一君）

日程第２、一般質問を行います。

発言通告者は１６名ありますが、議事の都合により、本日４人、２２日４人、２３日４人、２４日４人を予定しております。

一般質問の質問時間は、答弁を除き、１人３０分であります。所定の時間内に終わりますよう質問・答弁とも簡潔に要領よくお願いいたします。

また、質問は通告の範囲内にとどめるようにご協力をお願いいたします。

通告順に発言を許します。

中村 実議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村議員。〔１６番 中村 実君登壇〕

○１６番（中村 実君）

おはようございます。創生クラブの中村です。

今回は、糸魚川市の自殺対策と実績について伺います。

１、糸魚川市の自殺対策と実績について。

国内では、平成１０年から１４年間連続して自殺者数が３万人を超えていましたが、平成２３年以降は減少傾向に転じ、令和６年にはおよそ２万人となりました。

自殺の要因として、長時間労働や失業・生活苦・介護・育児・病気・仕事や借金などいろいろな事情が複数重なり、精神的に追い込まれることで死を選んでしまうと言われていますが、困り事への適切な相談対応や精神疾患が疑われる場合には適切な治療により、多くの自殺を防ぐことができます。

糸魚川市においても年間に１０人前後の方が自殺で亡くなっています。今後も自殺者ゼロに向けて取組を強化していただきたいと思います。今までにどのような取組を行ってきたのか、また今後どのように進めていくのか伺います。

（１）自殺未遂者の把握は行っているのか伺います。

（２）未遂者への支援は行っているのか伺います。

（３）今までの取組の中で効果的な対策は何かあったのか伺います。

（４）３月の自殺対策強化月間ではどのような取組を行ったのか、内容と成果を伺います。

（５）高齢者へ向けた自殺対策はどのように行ってきたのか伺います。

（６）小中学校での自殺防止に向けた取組の内容を伺います。

以上で、１回目の質問を終わります。

○議長（古畑浩一君）

暫時休憩といたします。

〈午前１０時０５分 休憩〉

〈午前１０時０５分 開議〉

○議長（古畑浩一君）

休憩を解き会議を再開いたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

おはようございます。

中村議員のご質問にお答えいたしたいと思います。

1 点目の自殺未遂者の把握につきましては、全ての事例の把握は困難ではありますが、医療機関等への救急搬送件数を確認しております。

2 点目の未遂者への支援につきましては、医療機関等との連携により、可能な限りご本人やご家族への相談支援を行っております。

3 点目のこれまでの効果的な取組につきましては、自殺対策を理解し、ご協力いただける地域の支援者を増やしていくことが重要と考え、自殺対策の啓発、人材育成の取組を続けております。

この取組により地域の皆さんから「心配な人がいる」との連絡などから支援につながり、地域の見守り体制が充実していくものと考えております。

4 点目の自殺対策強化月間の取組につきましては、毎年行っております広報紙やケーブルテレビ等による相談窓口等の周知のほか、新たな取組として市内スーパーでの街頭周知を行っております。

成果といたしましては、これら周知活動の継続により、自殺問題を身近に感じていただけているものと考えております。

5 点目の高齢者の自殺対策につきましては、一人暮らし等安否確認事業などの見守りを行うとともに、在宅の高齢者に関わる専門職への研修会を毎年実施しております。

6 点目の小中学校の取組につきましては、道徳の授業や特別活動を通じて、命を大切にする心を育む教育を推進するとともに、生徒指導計画に基づき、生活アンケートや面談を行い、適切な支援を行っております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の課長からの答弁もありますので、よろしくお願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村議員。

○16番（中村 実君）

1 点目の自殺未遂者について伺いますが、今ほどの市長答弁では、緊急搬送の件数というような話がありましたが、件数をどれぐらい確認しているのか。

また、具体的にそれによってどれぐらい内容を把握しているのか、差し支えない範囲でよろしいんですけど、お聞きしたいというふうに思ってます。

また、年間に何人ぐらいの人数を把握してるのか、それも併せてお願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

おはようございます。

お答えいたします。

救急搬送の状況につきましては、消防本部の救急活動報告により把握しております。

年間で5人から6人の搬送があるというふうに認識しております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村議員。

○16番（中村 実君）

今ほど消防本部からという話があったんですが、例えば搬送された場合に警察とか病院、また家族の方からのそういう情報とか、家族の方の相談とか、そういうものはあるものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

関係機関からの連絡、ご家族からの相談ともに、ほぼございません。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村議員。

○16番（中村 実君）

そうなると、確実な自殺未遂者の把握はできてないということですよ。五、六人の方が消防本部からの連絡があるというだけで、詳しいことは分からないということですが、自殺の危険性が高いんですよ。搬送されたという、その後ですよ、やはりその後のフォローをするには、警察とか病院あたりの連絡が非常に必要になってくるのではないかなという、その辺の決まりというのはあるんですが、ただ、警察とか病院が情報をくれなくても、自分らが目配りしてるんだということがあればいいんですけど、多分それはないと思うんですよ。だから人命に関わる問題だと思いますので、ぜひもう一度お願いして、1人でも2人でも情報を取れるようになれば、警察と病院のほうをお願いしていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

あくまで個人情報になりますので、情報提供いただくことは大変ちょっと難しいのかなというふうに思いますが、関係者会議を開く中で、そういった皆さんとの連携をお願いしておるところでございますし、当課でありますとか福祉事務所が関わっている案件であれば、まれに連絡いただける

ことがあるということでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村議員。

○16番（中村 実君）

できれば、ぜひそういうときにでもお願いできて、事情が許せば相談に乗れるような体制を取っていただきたいと思います。先ほど話がありました消防本部からの五、六人の情報が取れるということですが、非常にデリケートな問題ではありますが、保健所や市で相談に乗ったり、相談できるルート、そういうものも教えることもできると思うんですけど、この五、六人の人には、そういう、相談に乗ったりそういう先の連絡先みたいなものは、支援というのはしっかりやられているということでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

相談については数件ございます。必要に応じて医療のほうにつなげているという状況でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村議員。

○16番（中村 実君）

自殺未遂者というのは、また自殺をする可能性が非常に高いというふうに言われているんですね。何とか情報をもらいながら、五、六人の人たちとも話をしながら精神科医の専門家につないでいって、相談をしていただくとかすることが大変必要だというふうに思っております。

糸魚川市の自殺対策計画の自殺未遂歴を見ると、自殺者の17%に未遂歴があるというふうに書かれています。また、未遂者への、やはり対策というのは必要だと思うんですが、自殺対策計画にこのように、17%の方がまた自殺するんだということが書かれているので、それに向かっての何か、実際に行動とか対策って取っているものですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

私ども自殺対策計画にございますように、必要な医療につなげていくということを継続して取り組んでいるところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村議員。

○16番（中村 実君）

それは、先ほどの五、六人の方たちにということなんですよ。その方たちがそういうところにつなげてやって、その後、つなげるだけで、その後の関わりというのは、もうないもんですか。ある程度は定期的にうちを回って、本人と会って状況を聞いてみるとか、そういうところはどうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

状況にもよりますが、市が関わっているケースであれば、そういうことも行っているということでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村議員。

○16番（中村 実君）

市が関わってなければできないと思いますけど。やはり市が関わって、情報をもらっている以上は、やはり退院した後もやっぱりそういう関係を持ち続けるということが必要だと思うんです、あまりしょっちゅうというわけにもいきませんが。本人と会わなくても家族の方と会って、状況を確認したりということは、非常に必要だと思いますので、しっかりとそこも検討を重ねていただきたいと思っております。

次に、効果的な対策についてということで、糸魚川市の主な自殺の背景として、6つの特徴が書かれております。

近年の自殺者数は減少傾向であり、おおむね横ばいですが、今でも男性の自殺死亡者が多くなっているということです。近年では、女性が占める割合が増加傾向にあり、男性は大体30代、女性においては80歳以上の方で同居人がいるという人が多いようです。死亡率が突出して高くなっているようで、同居人であっても自殺の前兆に気づくことができないというふうに言われているんですが、もう少し自殺対策が市民に幅広く周知していけば、その中でも助かる人がいたのではないかなというふうに私は思うんですが、どのような周知方法を行っているのか伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

自殺の事例が高齢者に非常に多く見られるということから、高齢者の鬱症状であったり、その対応について、地域の支援者の方々を対象に研修等を行って、周知をしておるところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村議員。

○16番（中村 実君）

それでも減らないということは、やはりもう少し市民に周知をしていくというところが必要だと思うんで、その辺をもう少し強くしていただきたいと思います。

糸魚川市は男女とも自殺死亡率は低いんですが、病気などと併せて見ると、自殺死亡率は上のほうなんですね。トップクラスなんです。だから、大変死亡者が多いということなんで、放置できないという、糸魚川市も放置しておかれない大切な問題だというふうに思っていて取り組んでいただきたいと思います。この自殺者のそれが特徴だということなので、無職の人の自殺が多いということで、無職の人に対しての、誰が無職かというのはちょっと分かりづらいと思うんですけどね、公民館とかいろんなところの情報を取りながら、そういう人たちにどのような対策を取ってきたのか、また、取っていないのかどうか、その辺をお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

必要な支援につなげられるように、庁内委員会というものを設置しまして、庁内の関係課でいろいろ情報を共有しながら対応に当たっているところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村議員。

○16番（中村 実君）

今言ったみたいに無職の人に限っての質問なんですけど、なかなか市役所であの人遊んでるんじゃないとか、そういうのは分からないと思うんですよ。だから、地域に入ってそういう情報を取るとか、ハローワークで職をあっせん、もう少ししてもらうとか、そういう対応も必要だと思うんですけど、ハローワークへのそういう取組というのはないんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

山岸福祉事務所長。〔福祉事務所長 山岸千奈美君登壇〕

○福祉事務所長（山岸千奈美君）

おはようございます。

お答えいたします。

無職の方のこと、そしてハローワークとの連携ということでございますが、福祉事務所におきまして、生活困窮者の支援ということを行っております。その中で、基本的にはご本人から発信していただくということが基本にはなりますが、民生委員さんであったりとかいろんなネット

ワークの中で、そういう支援があるということも紹介する中で、生活困窮者の相談につなげている状況でございますし、その相談の一つには、ハローワークとの連携の中で職業の支援というところも併せて行っている状況でございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村議員。

○16番（中村 実君）

ハローワークでもタイアップして一生懸命やられてるということですが、できればもう少し力を入れて進めていただければ、1人でも減るんじゃないかなというふうに思っておりますが、途中で若くして辞める人もいますし、定年退職で仕事を辞められている人もいると思うんですね。次の仕事へ移らればいいんですけど、その仕事もなくて、うちにいる人たちが、趣味で畑作業とかそういうことをしている人ならば、表に出て太陽に当たるだけでも体にいいというふうに言われていますし、自殺対策にもなるのかなというふうに思っております。できれば地域の活動とか公民館事業、そういったもので、家から出るように進めていく必要があるのではないかなというふうに思っております。それにはやっぱりご近所さんや公民館や区長さん、そういう人たちを、分かる人、独り住まいの人がよく知ってる人から力になってもらう必要があると思うんですが、そういったところへ、区長さんとか近所の方とか公民館、そういったところへの働きかけというのをやっているのか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

山岸福祉事務所長。〔福祉事務所長 山岸千奈美君登壇〕

○福祉事務所長（山岸千奈美君）

お答えいたします。

地域への働きかけというところでございますが、先ほどの市長答弁にもございました、一人暮らし安否確認事業におきまして、主に老人クラブの会員の皆様方に地域のほうに月2回訪問を、地域というか独り暮らしの対象者の方に月2回訪問を行っているところでございます。

その中で、老人クラブの会員さんでいらっしゃいますので、そういった会への参加の促しというところも行っておりますし、広く皆様のほうに地域への参加、そして孤立・孤独を防ぐというところが、自殺対策には非常に重要というふうに認識しておりますので、その中で、皆さんに働きかけを行っていただいているところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村議員。

○16番（中村 実君）

ありがとうございます。

ただ、やはり公民館なんかに出かけてみると、大体来てるメンバーって、もう決まってるんです



よね。同じ顔ぶれしか来てない。いかにふだんそういうところに来ない人たちに連絡して、少しずつ出ていただこうかというところが今後の課題だと思いますので、ぜひその辺にも力を入れて、何とかうちから出ていただくような取組にも協力していただく必要があるかなというふうに思っております。

年寄りだけじゃなくて、最近、30代の男性とか40代の女性の方も自殺率が高くなっているという状況があるようです。原因としては、職場の配置転換や疲労、職場の人間関係から来る鬱病が原因だというふうに言われています。

職場のことについては、定期的に担当のほうで会社訪問を行ったりアンケートを行っているという話もちよこっとは聞いてるんですけど、どのような内容のことを行ってるのかちょっとお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

保健師の活動の中で、糸魚川保健所と協力いたしまして、事業所につきましては、要望いただく中でメンタルヘルス等の出前講座に伺っているところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村議員。

○16番（中村 実君）

出かけてるということですが、年に何回ぐらい、年に1回なのか複数行ってるのか、その辺はどうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

年に数件でございますので、この辺の活動をもう少し増やしていきたいなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村議員。

○16番（中村 実君）

やはりまだ聞くとところによると残業の多い会社とかってそこそこあるようなんですよね。だから、その辺の話をしっかりとさせていただきたいなというふうに思います。最低でも3月の自殺対策強化月間、9月の自殺予防週間、そういうのに合わせて、そのときに、年に2回ということじゃなくて、そういうときに強化して、やはり事業所に出かけて、しっかりと対応してもらう必要があると思う

んですけど、そういうことは、月間とか週間においては、そういうことはやられたんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

今ほど議員おっしゃった期間等を意識してですね、今後そういった企業訪問の活動等を検討してまいります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村議員。

○16番（中村 実君）

ぜひそういう、日本中ですよ、同じ時期に3月、9月にそういうことやってますので、ぜひそういうときに合わせて、力強く会社訪問していただきたいなというふうに思っております。

次に、3月の自殺強化月間の取組についてを伺います。

青海事務所は伺わなかったんですけど、本庁と能生事務所、ちょこっと寄らせていただきました。そこには自殺対策についての展示コーナーが、私は見当たらなかった。今悩んでいる人たちにそういうのを止めるためのポスターや家族や友達が気づくようなポスターの展示が必要だというふうに思っておりますが、パンフレットの配布もそうですよね。やってなかったということをどのように考えているのか、もしかしたら何かでやったのかもしれませんが。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

庁内のポスター等の掲示物の見直しを行いまして、3月の強化月間ではポスターの掲示は行わなかったんですけども、3地域の図書館では自殺対策に関する展示を行っているというのが現状でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村議員。

○16番（中村 実君）

やはり各支所でも3か所でしっかりと行うべきだと思うんですよ、公民館も併せて。玄関入ってくると受付のところの左側にモニターがありますよね、大きい。やはりああいうものを利用して、定期的に流すということも必要だと思うんですけど、そういう考えはないですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

議員おっしゃられた市民生活課の窓口のところの行政モニターですね、そちらのほうには流しておりますし、能生のケーブルテレビのほうでも流しているところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村議員。

○16番（中村 実君）

ありがとうございます。私もずっとそこにいて見てたわけじゃないんで、たまたま違う画面が出てたものですから、どうなのかなというふうに思いました。

前に課長やった池田課長のときには、確定申告のときに待合室のところでビデオを流してもらったことあるんですよね。それは、結構待ち時間があるものですからすごく有効な取組だったと思うんですよ。やはりそれは毎年続けていくのかなと思ったんですけど、今年はなかったようなんですけど、ビデオは市の持ち物なのか、どっかから借りてきたものなのかよく分かりませんが、市の持ち物だとしたら、やっぱりあそこの場所で流す必要があると思うんですけど、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

税の申告会場の待合いの場所に、前はモニターを設置しておったんですが、そちらで流しておりました。今現在、そちらにモニターを設置しなくなったものですから、モニターがなくなったもので流していないということでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村議員。

○16番（中村 実君）

モニターがなくなったってことは、今のこっちのほうへ移動したんでなくなったってことなんですか。壊れてなくなったということなんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

申告会場の待合所には、テレビ、普通のテレビを置いておりました。テレビで待っている方、少し時間が長くなるので普通にNHKの放送だったり、そういったものを流しておったり、行政の情報を流しておったりということをやっておりましたが、今現在それをやっていないというふうに聞いております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村議員。

○16番（中村 実君）

ぜひですね、9月の自殺予防週間には、予防週間のときはあそこ使わないですかね、3月には、ぜひまたそこで使えるような、そういう取組もちょっと考えてみてください。すごくこれ、有効だと思ってるんですよ。

能生事務所と青海事務所の所長さんに伺いますが、3月の自殺対策強化月間中にパンフレットとかりふレットは置いてなかったように思うんですが、年間を通して空スペースがあれば、やはり展示していただきたいなというふうに思うんですが、9月の自殺予防週間では、ぜひ市民の皆様方に見やすい場所、見ていただける場所にそういうものを設置していただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

杉原能生事務所長。〔能生事務所長 杉原 満君登壇〕

○能生事務所長（杉原 満君）

おはようございます。

お答えいたします。

ご質問の自殺対策強化月間のポスター、パンフレットにつきましては、私自身、把握しておりませんでした。能生事務所に掲示依頼のありましたポスターにつきましては、事務所内のポスター掲示板、または隣接している能生生涯学習センターの1階ホールの掲示板にて掲示をしております。

ポスターの内容等を考慮いたしまして、今後もより多くの方の目に触れるような場所を選んで掲示したいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

渡辺青海事務所長。〔青海事務所長 渡辺 茂君登壇〕

○青海事務所長（渡辺 茂君）

おはようございます。

青海事務所におきましても、公的機関から依頼のありましたポスターの掲示物ですとかは掲示しておるようにしておりますし、今後も同様の対応で、周知啓発に努めてまいります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村議員。

○16番（中村 実君）

ぜひ3月と9月だけでもね、年中置いとくのも必要だと思うんですけど、3月、9月のそういう月間のときは、なるだけ人目につく、1番つきやすい場所にしっかりとそういうものを展示していただきたいというふうに思いますので、次は9月なんで、またそれに向けて対応していただきたいというふうに思っております。

地域振興局も私、たまたま用事で行ったんですけど、ロビー入った右側のところに畳3畳ぐらいのスペースに大きな字で、3月は自殺対策強化月間ですというふうに書かれておりました。その下

に、自殺に関する多くのポスターとかいろんなものがたくさん掲示してありました。それが終わりました、また後日伺ったら、5月23日は難病の日ですということで、やはり難病の方でも自殺に及ぶ人がいるということで、関連があるのかなというふうに思っております。ぜひ糸魚川市でも、自殺に関して少しでも人の目について、それによって1人でも自殺者が減るように、そういうことを市長のほうからもしっかりと指示していただきたいというふうに思うんですが、市長いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えいたします。

近年デジタル化が進んでいる中において、まだ、ぱっと見たときと、それに引き続いてポスターがそこで見られるという流れをつくりながらという部分の工夫が、今後必要になるかと思います。そういう工夫を含めて対応するという点、これから指示をしてまいりたいと思います。

また、先般、えんてらすというところの運営についてお聞きした中において言えば、掲示物というのはインフォメーションとやっぱり掲示というのは別であるべきだと。のべつ幕なし貼るのではなくて、きちっとした掲示板を活用して貼るという、運営面での勉強もさせていただきましたので、そういう部分も含めて対応してまいりたいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村議員。

○16番（中村 実君）

ありがとうございます。よろしくお願いいたします。

特にやっぱり公民館ですね。お年寄りが毎日のように足を運ぶ公民館とかは有効だと思いますので、高齢者に向けた自殺対策の取組になると思いますので、ぜひそちらのほうも力を入れていただきたいなというふうに思っております。

次に、糸魚川市高齢者自殺対策の取組として、ゲートキーパーの養成を目的とした民生委員への出前講座のほか、鬱病予防をテーマとした老人クラブへの健康講話も実施し、自己チェックが可能な基本チェックリストのリーフレットの配布や鬱病を疑うサインやご自身の家族への変化に気づくためのチェックリストなどがありますが、これは年間に何回、どのようなときに配付し、また、この健康講話もどのように実施してるのか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

チェックリストの配付のほうは行ってないということでございます。それで、何をやってるかつ

ていうと、運転免許の返納の方がおいでになったときに、健康状態の確認の中でそういったお話をさせていただいてるところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

山岸福祉事務所長。〔福祉事務所長 山岸千奈美君登壇〕

○福祉事務所長（山岸千奈美君）

高齢者の健康講話という点について、福祉事務所からお答えしたいと思います。

こちらにつきましては、ゲートキーパー研修も受けております地域包括支援センターの職員が中心となりまして、各地区の老人クラブやサロンのほうで講話を行っております。

その講話の内容につきましては、地区からの要望で、フレイル予防であったり、あとは認知症予防であったりということで広く健康づくりに関する講義内容にはなっておりますが、その中で、地域のほうに出向くという先ほどのお話のその必要性であったりとか、あとは、人と人とのつながりの大切さというところ、自殺対策につながるような社会参加の重要性というところも講話の中で盛り込んで伝えていただいている状況でございます。

年間大体１２０から１３０回ほど地区のほうに回らせていただいているという現状でございます。以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村議員。

○１６番（中村 実君）

今ほど課長のほうからチェックリストの配付は行っていないというふうに答弁があったんですけど、配付は行っていないけど、出かけて、そこでチェックリストの書き込みをしてるということでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

議員おっしゃるとおりでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村議員。

○１６番（中村 実君）

年間に百二、三十回も回られてるということで、相当の効果があるんじゃないかなというふうに思っていますので、１２０から１３０という、今年は１３０から１４０ということで数を増やして、対応していただきたいというふうに思っております。

自殺予防に関する普及啓発活動を行い、鬱病予防をテーマとした老人クラブへの健康講話を実施してるという、これもその内容の一つになるというふうに思うんですが、３月とか９月、そういう

ときに、特別に集中してそういう講話をやるということなんではないかな。それか平均してやられるということなのか、ちょっとお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

その期間に特別にやってるということではないんですけども、先ほど来からのお話でございますように強化月間とか、そういった9月の週間にそういったものを意識して今後、事業展開を図ってまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村議員。

○16番（中村 実君）

ぜひお願いします。そういうことの積み重ね、それが自殺予防につながるというふうに私は思っていますので、ぜひ一生懸命、人間、職員にも限りがありますんでね、そんなにしょっちゅうというわけにいかないと思いますけど、ぜひ進めていっていただきたいというふうに思っています。

1人でも減らせるように頑張っていたきたいと思います。

次に、小中学校での自殺防止に向けた取組について伺います。

先ほど学校では、道徳の授業に生徒指導を行っているという答弁だったと思うんですけど、道徳授業のときに、具体的にどのような内容の授業を行っているのかお聞きいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

渡邊学校教育課長。〔学校教育課長 渡邊興勝君登壇〕

○学校教育課長（渡邊興勝君）

おはようございます。

お答えいたします。

学校の授業の中で、自殺そのものを具体的な直接的な題材として扱うことはあまりありませんが、道徳の授業の中で生命の貴さを学んだり、特別活動の中で人間関係づくりを学んだりということで、自分も他人も安心して生活できるベースづくりの部分の育成に取り組んでおります。

また、長期休み明け等、全国的に児童生徒の自殺者が増えるときには、県が出しています、自殺予防教育プログラムにありますSOSの出し方の学習等を学校で取り入れてるところです。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村議員。

○16番（中村 実君）

今の長期明け、休みの後のということは、これは令和4年の3月に県のほうからの指導で始まっ

たことだというふうに私思ってるんですが、よく長い休みの、春休み、夏休みというようなその後に子供たちがちょっと調子が悪くなるという話がよく伺ってるんですが、やはり自分のクラスだけではなくてね、ほかのクラスも見ていく必要があると思うんですが、先生たち、全員だと一番うれしいんですけど、自殺予防の講習などの、受けたとか、そういう知識を持ってる先生がたくさんいるのか、全員いるのか、その辺ちょっとお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

渡邊学校教育課長。〔学校教育課長 渡邊興勝君登壇〕

○学校教育課長（渡邊興勝君）

お答えいたします。

議員おっしゃるとおり、気になる子供については学校全体で全ての教職員で見守っていくということが大切になります。ですので、生徒児童に関わる研修、児童理解の研修等については、各校で校内研修はもちろんですが、県や市の研修等も使って学び続けているところでありまして、これからも続けてまいりたいと思います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村議員。

○16番（中村 実君）

やはり先生がそういう知識がないと、なかなか子供たちの異常に気づかないと思うんですよね。やはり細かく命の大切さやSOSを出す、やはり少しでもSOSを出してると思うんですよね。そういうのを見逃さないように、しっかりと今後もそういう取組を勉強していただきたいなというふうに思っています。先生たちも大変忙しいっていうのは分かってるんですけど、最低限のやっぱり知識は子供たちのためにも持っていただきたいというふうに思っております。

次に、この6月9日に高市総理が、第6回こども政策推進会議を開催しました。こどもまんなか実行計画2026について議論が行われ、黄川田大臣のリーダーシップの下、こども・若者自殺防止総力戦略やこどもの自殺対策緊急強化プランの改定を見据え、現場で確実に支援につながる体制を整えるとともに、子供の貧困対策や独り親家庭の支援の強化にも力を入れるように関係大臣に決定した実行計画に基づき、連携し、スピード感を持って着実に成果を出すようにという指示を出したそうです。

これに基づきまして、今までの取組と違う自殺対策に向けた取組が始まると思いますが、教育委員会では、まだ10日ほどしかたっていないでそういう情報が来てないかというふうに思いますが、なるだけ早めに、ネットにも出てますので、どんなことをやったのかなというのでもやはり情報を集めて早めに、通達が来る前にでもできることがあれば、やっぱりやってもらう必要があるんじゃないかなというふうに思いますが、その辺はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

渡邊学校教育課長。〔学校教育課長 渡邊興勝君登壇〕



○学校教育課長（渡邊興勝君）

お答えいたします。

貴重な情報ありがとうございます。正直、まだ教育委員会では、その情報確認ができておりません。これから早めに確認をして、内容によって、これから始まる夏休みに向けた各学校の指導に生かせる部分、確認をして、各学校に周知・指導していきたいと思います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村議員。

○16番（中村 実君）

引くと、私、引いたらこういうものが出てきますんで、何らかの形で出てくると思いますんで、ちょっと確認して、内容を調べてみてください。

次に、この自殺対策計画などの資料では、自殺という言葉が使われていますが、自殺ではなく違う呼び方も糸魚川市では検討しているのかどうか伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

国や県もですね、まだ今のところ自殺対策という言い方を変えておりませんので、市としては今のところ考えておりません。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村議員。

○16番（中村 実君）

今、新潟県というよりは東北に向いて行くほど自殺者がすごく多くなってるんですよね、北海道とか。そういったところでの取組が非常に進んでいるんですが、やはりそういうところは糸魚川市よりは自殺対策が、非常に自殺者が多いということで自殺対策も少し進んでるんですよね、ネット見るとね。だから、その自殺という言葉についても自ら命を絶つことを一般に自殺という、しかし、自殺という言葉に「殺す」という文字が使われていることから、強い違和感や不快感を覚える遺族がたくさんいると。自殺者が多い分だけ遺族も多いってことですね。その心情に配慮して、遺族支援においては、特に自殺という言葉を使わないで、自分で死を選ぶということで「自死」、自分で死ぬという「自死」という言葉を使うところが多くなってきているということなんです。私もネットで調べると結構あるんですよね。いろんな市で、もう自死という、自殺計画じゃない自死計画とか、そういうふうに変ってきてるんで、糸魚川市としても、やはり遺族の方々のことを考えると、今後、すぐに変えるということではなくてね、自死という言葉を使うような、そういうことも考えていく必要があると思うんですが、その辺いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

配慮は必要だというふうに私も考えますので、今後はですね、必要に応じて、場面に応じて、自死という言葉の使用も必要だというふうに考えます。

自殺対策計画の中でも自死遺族への支援という言葉を使っておるところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村議員。

○16番（中村 実君）

ぜひ自死という、少し柔らかい言葉になるんですかね。まだ聞き慣れないんでちょっと変な気もしますが、そういうものもちょっと調べてみて、徐々に使っていくような、そういう糸魚川市にしていきたいというふうに思っております。

こういうものでも、自死を防ぐためにどうすればいいんだということで、やはりその睡眠が大事ですと。よく眠れないとどうしても体調を崩してしまう。バランスのいい食事、そういうことも書かれていますし、やはり先ほど言いましたように適度な運動、やはりうちにいるんじゃなくて、やっぱり家から出ていただいて、皆さんと一緒に会話したり、適度な運動をしたり、そしてその中で、人とのつながり合いができてくると、それが自殺対策には効果があるというふうに言われています。

宮城だったかな、どっかのほうで、30人と市の職員、30人と話しましょうという30人会というのを立ち上げたいんです。1日に30人の方々と、取りあえず何かを話していきましょう。それから、悩める人たちを救いましょうということで、それをやったらいいんですけど、なかなか当初は30人と話すことができなかったということで、中には、犬も1と考えたり、猫を1と考えたりして何とか30をクリアして、時間がたつにつれて30人と会話ができるようになってきた。そこで、今の生活態度だとか仕事関係だとか、そういうものの話をしながら、病院とかそういうものにつなげていくという、そういう取組をしてるところもあるんですよね。

やはり糸魚川市としても、それをやれってことじゃなくて、やっぱり今までやってきても10人前後で推移してるわけですから、それをやっぱりもう少し、7人とか6人とか減らしていく、ゼロにはなかなかないと思うんで、減らしていく対策として何か新しい取組をする必要があると思うんですが、今まだ何をやれってことじゃなくて、また模索していただきたいと思うんですけど、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

今、議員のほうからいろいろご提案いただきました。そういったことを踏まえて、私どもも新たな展開というのを考えてまいりたいというふうに思いますし、目指すは自殺ゼロでございます。実際なかなかゼロにはなりませんけども、減らしていきたいという中でも目標はゼロということを目指していきたいというふうに思います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村議員。

○16番（中村 実君）

人口が随分減ってきていますので、頑張ったから、10人が8人になったといっても人口減なんで、その数字の表れなのかもしれないですね。だからもう少しその辺を気をつけて、いろんな人と会話をしながら、特に鬱病ですね。鬱病とか家庭への閉じ籠もり、私の知り合いでも何人か、うちから出れない人が、かわいそうですけどね、いるんですけど、そういう人たちに、ファーストドクターというのがありまして、適応障害の治療ということでファーストドクターの利用実績が2026年3月末の時点で252万件というふうに。だから、このファーストドクターっての私もよく調べてないんですけど、どっかとながりを取って、自殺しないような対策ですね。連絡、うちにいても携帯で相談できるような、そういう体制をつくっていただくには、この携帯とかネットとかそういうものを使いながら発信していく必要があると思うんですけど、そういう取組というのは、やってるんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

議員がおっしゃられたように、様々な媒体を使つての取組、そういったものも含めて、今後担当の保健師たちと作戦会議をしていきたいというふうに思います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村議員。

○16番（中村 実君）

1人の方が自死すると、少なくとも周囲の5から10人の方が、非常に深刻な影響を受けるというふうに言われております。また、その自死によって様々な誤解や偏見があるため、遺族は人に話すことができない、孤立してしまいます。

このように2次被害を受けないように、自死の後の家族のフォローもしっかりしていただきたいことを私からお願いいたしまして、私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（古畑浩一君）

以上で、中村議員の質問が終わりました。

ここで5分間の休憩に入ります。